

資料編

参考文献一覧

第1章

日外アソシエーツ編集部, 1992 : 昭和災害史年表事典, ②昭和21年～昭和35年, 日外アソシエーツ.

堀川清司, 1985 : 海象災害—沿岸海洋災害—, 学術月報, 第38巻, 11号.

日本学術振興会, 1986 : 都市の変容と自然災害, p. 103-122.

第2章

気象庁, 1961 : 昭和35年4月24日チリ地震津波調査報告, 気象庁技術報告, 第8号, 389p.

Kanamori, H. and J. J. Cipar, 1974 : Focal process of the great Chilean earthquake, May 22, 1960, *Physics of The Earth and Planetary Interiors*, Vol.9, Issue 2, p.128-136.

Plafker, G., 1972 : Alaskan earthquake of 1964 and Chilean earthquake of 1960: implication for Arc tectonics, *Journal of Geophysical Research*, 77, p.901-925.

Kanamori, H., 1977 : The Energy Release in Great Earthquake, *Journal of Geophysical Research*, Vol. 82, No.20, p.2981-2987.

首藤伸夫・今村文彦・越村俊一・佐竹健治・松富英夫(編), 2007 : 津波の事典, 朝倉出版, 350p.

岩瀬浩之・後藤智明, 1998 : 津波の波数分散効果に関する考察, 月刊海洋号外, No. 15, p. 99-104.

Kajiura, K. 1970. : Tsunami source, energy and the directivity of wave radiation, *Bulletin of the Earthquake Research Institute*, Vol. 48, p.835-869.

都司嘉宣, 1977 : 水深が一定でない大洋を伝わる遠地津波の伝播, *海洋科学*, Vol. 9, p. 45-53.

Mofjeld, H. O., V. V. Titov, F. I. Gonzalez, and J. C. Newman, 2000 : Analytic theory of tsunami wave scattering in the open ocean with application to the north Pacific, *NOAA Technical Memorandum OAR PMEL-116*, 38 p.

越村俊一・宗本金吾・大家隆行・柳澤英明・阿部郁男・今村文彦, 2007 : 2006年千島列島沖地震津波の伝播特性における天皇海山列の影響評価, *土木学会海岸工学論文集*, 第54巻, p. 171-175.

Koshimura, S., F. Imamura and N. Shuto, 1999a : Propagation of obliquely incident tsunamis on a slope Part I, Amplification of tsunamis on a continental slope, *Coastal Engineering Journal*, Vol.41, No.2, p.151-164.

Koshimura, S., F. Imamura and N. Shuto, 1999b : Propagation of obliquely incident tsunamis on a slope Part II) Characteristics of on-ridge tsunamis, *Coastal Engineering Journal*, Vol.41, No.2, p.165-182.

藤間功二・後藤智明・林建二郎・重村利幸・首藤伸夫, 1995 : 伊豆・小笠原諸島の津波増幅特性, *海岸工学論文集*, 第42巻, p. 381-385.

久本壮一・村山チエ子, 1961 : 津波の伝播について, 気象庁技術報告, 第8号, 昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告, p. 236-240.

今村文彦, 1989 : 数値計算による津波予警報の可能性に関する研究, *東北大学大学院工学研究科博士論文*, 161p.

今村文彦・後藤智明・首藤伸夫, 1990 : 遠地津波の数値計算に関する研究その2, 太平洋を伝播する津波の挙動, *地震*, Vol. 43, p. 389-402.

Mansinha, L. and D. E. Smylie, 1971 : The displacement fields of inclined faults, *Bulletin of Seismological Society of America*, Vol. 61, p.1433-1440.

- Nakamura, K. and H. Watanabe, 1961 : Tsunami forerunner observed in case of the Chile tsunami of 1960, Report on the Chilean Tsunami of May 24, 1960, as Observed along the Coast of Japan, p. 82-99.
- Takahashi, R. and T. Hatori, 1961 : A summary report on the Chilean tsunami of May 1960, Report on the Chilean Tsunami of May 24, 1960, as Observed along the Coast of Japan, p. 23-34.
- Kajiura, K., 1961 : A note on the partial reflection of long waves passing through a submarine ridge, Report on the Chilean Tsunami of May 24, 1960, as Observed along the Coast of Japan, p. 100-102.
- 越村俊一・今村文彦・首藤伸夫, 1999 : 南本州海嶺の津波導波特性, 土木学会海岸工学論文集, 第46巻, p. 331-335.
- 宗本金吾, 2009 : 太平洋で発生する津波の後続波に関する研究, 東北大学大学院工学研究科修士論文, 133p.
- 今村文彦・永野修美・後藤智明・首藤伸夫, 1987 : 1960年チリ津波に対する外洋伝播計算, 第34回海岸工学講演会論文集, p. 172-176.
- 高岡一章・伴一彦・山木 滋, 2001 : 数値シミュレーションによる遠地津波予報の可能性-1960年チリ地震津波の例-, 津波工学研究報告, 18, p. 113-130.
- 日本自然災害学会, 2000 : チリ津波40周年-何をもたらし, 何がかわったか? -, 自然災害科学, Vol. 19, No. 3.

第3章

- Kajiura, K., 1961 : A note on the partial reflection of long waves passing through a submarine ridge, 1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, チリ津波合同調査班, p. 100-102.
- 気仙医師会, 1984 : 座談会 チリ地震津波体験医師は語る, 気仙医師会史, p. 149-170.
- 建設省国土地理院, 1961 : チリ地震津波調査報告書-海岸地形とチリ地震津波-
- 三好寿・山口和貞, 1961 : 北海道、1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, チリ津波合同調査班, p. 226-231.
- Nakamura, K. and H. Watanabe, 1961 : Tsunami forerunner observed in case of the Chile Tsunami of 1960, 1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, チリ津波合同調査班, p. 82-99.
- Takahashi, R. and T. Hatori, 1961 : A summary report on the Chilean Tsunami of May 1960, 1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, チリ津波合同調査班, p. 23-34.
- Takano, K., Y. Nagata, H. Sudo and A. Takeda, 1961 : Drawing of refraction diagrams and analysis of the Chilean Tsunami of May, 1960 on a terrestrial globe, 1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, チリ津波合同調査班, p. 46-51.
- 渡邊偉夫, 1998 : 日本被害津波総覧第2版, 224p.
- Kato, Y. *et al.*, 1961 : The Chile Tsunami of May 24, 1960 Observed along the Sanriku Coast, Japan, The Chilean Tsunami of May 24, 1960, チリ津波合同調査班, p. 67-76.

第4章

- 大船渡市, 1960 : チリ地震津波災害における応急対策の現況と問題点, p. 15-16.
- 気象庁, 1961 : 第2節 チリ地震津波速報, チリ地震津波記念三陸津波誌, 気仙地区調査委員会, p. 15-28.
- 福井英夫, 1961 : チリ地震による三陸の津波, チリ地震津波記念三陸津波誌, 気仙地区調査委員会, 39p.
- 気仙医師会史, 1998 : チリ地震津波と気仙沼保健所

第5章

- 今村文彦・首藤伸夫・後藤智明, 1990 : 遠地津波の数値計算に関する研究, その2, 太平洋を伝播する津波の挙動, 地震, 2, 43, p. 389-402.
- Kanamori, H. and J. W. Given, 1983 : Use of Long-Period Seismic Waves for Rapid Evaluation of Tsunami Potential of Large Earthquakes, Tsunamis-Their Science and Engineering, TERRAPUS, Tokyo, p. 37-49. [大地震による津波発生の可能性を即刻判断するために長周期地震を用いる貴重な研究]
- 気象庁, 1961 : 昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告, 気象庁技術報告, 第8号, 389p.
- 気象庁, 1975 : 津波警報業務, 気象百年史, p. 445-450.

- 気象庁観測部地震課, 1977 : 津波予報業務の変遷と現状, 測候時報, 44, p. 123-161.
- 気象庁報道発表資料, 2007 : 津波予報のより速やかな更新や解除について
- 北沢一宏, 1990 : 国際津波警報網の構築, 地震ジャーナル, 9号, p. 40-46.
- 小山順二・武村雅之, 1981 : 津波の規模を予測する新手法, 科学朝日, 9月号, p. 80-84.
- 関田康雄, 2000 : チリ地震津波は津波予報をどう変えたか, 特集記事, チリ津波40周年, 日本災害学会, p. 280-284.
- 渡邊偉夫, 1992 : 津波一発生の実態と予報, 建設防災, 180(12月号), p. 1-9.

第6章

- Kawamura, B. and A. Mogi, 1961 : On the deformation of the sea bottom in some harbours in the Sanriku Coast due to the Chile Tsunami, Report on the Chilean Tsunami of May 24, 1960, as observed along the coast of Japan, The Committee for Field Investigation of the Chilean Tsunami of 1960, p. 57-66.
- 佐々木 忍, 1960 : チリ地震津波について, 第7回海岸工学講演会講演集, 土木学会, p. 275-287.
- 佐藤忠男, 1960 : 三重県下におけるチリ地震津波と養殖イカダの被害状況, 水産増殖, Vol. 8, No. 3, p. 193-202.
- 首藤伸夫, 1997 : 津波来襲後の陸上交通障害について, 津波工学研究報告, 東北大学, 第14号, p. 1-31.
- 首藤伸夫, 1999 : 津波による海岸堤防・護岸の被災, 一昭和8年三陸大津波から昭和35年チリ津波まで一, 津波工学研究報告, 東北大学, 第16号, p. 1-37.
- 中野秀章・高橋啓二・高橋敏男・森沢萬佐男, 1962 : 岩手・宮城両県下防潮林のチリ地震津波時における実態・効果と今後のあり方, 林業試験場研究報告, 第140号, p. 1-88.
- 永野修美・今村文彦・首藤伸夫, 1989 : 数値計算による沿岸域でのチリ津波の再現性, 海岸工学論文集, 第36巻, p. 183-182.
- 八戸火力発電所, 1969 : チリー地震津波被害状況報告書, 12p.

第8章

- 文部省震災予防評議会, 1933 : 津浪災害予防に関する注意書, 津波デジタルライブラリ, 14p.
- 内務大臣官房都市計画課, 1934 : 三陸津浪に因る被害町村の復興計画報告書, 53p.
- 農林省山林局, 1934 : 三陸地方防潮林造成調査報告書, 140p.
- 岩手県土木課, 1936 : 震浪災害土木誌, 261p.
- 佐々木忍, 1960 : チリ津波について, 第7回海岸工学講演会論文集, p. 275-287.
- 宮城県, 1934 : 宮城県昭和震嘯誌, 154p.
- 首藤伸夫, 2001 : 昭和三陸津波記念碑一建立の経緯と防災上の意義一, 津波工学研究報告, 東北大学災害制御研究センター, 18, p. 73-84.
- 山下文男, 2003 : 三陸海岸・田老町における「津波防災の町宣言」と大防潮堤の略史, 歴史地震, 第19号, p. 165-171.
- 田老町教育委員会, 2005 : 田老町史 津波編(田老町津波誌), 212p.
- 高知県, 1949 : 南海大震災誌, 692p.
- 気象庁, 1961 : 昭和35年4月24日チリ地震津波調査報告, 気象庁技術報告第8号, 389p.
- 岩手県, 1969 : 岩手県チリ地震津波災害復興誌, 261p.
- 建設省国土地理院, 1961 : チリ地震津波調査報告書一海岸地形とチリ地震津波一, 71p.
- 建設省土木研究所, 1981 : 参考資料-1 災害危険区域の整備状況と条例集(出水・津浪・高潮), 建築物の耐水化に関する調査報告書(第2報), 土木研究所資料, 第1645号, p. 1-15.
- 堀川清司・西村仁嗣, 1969 : 津波防波堤の効果について, 第16回海岸工学講演会論文集, p. 365-369.
- 後藤智明・吉田行秀・山木滋, 1991 : 湾口防波堤による津波波高の低減効果, 海岸工学論文集, 第38巻, p. 171-175.
- 土木学会海岸工学委員会, 1985 : 日本の海岸と港湾一海岸編一, スライド130枚.
- ITS1981 (1981年国際津波シンポジウム) 事務局, 1981 : An introduction to tsunamis and defence works in the Sanriku Coastal Area, 47p.
- チリ地震津波気仙地区調査委員会, 1960 : 三陸津波誌, 365p.

岩手県海岸保全施設等天端一覧表（平成14年）

建設省河川局・水産庁, 1983 : 津波常襲地域総合防災対策調査報告書, 津波デジタルライブラリ及び津波工学研究報告, 第13号, 83p.

国土庁・農林水産省構造改善局・農林水産省水産庁・運輸省・気象庁・建設省・消防庁, 1997 : 地域防災計画における津波対策の手引き, 津波デジタルライブラリ, 99p.

首藤伸夫, 1998 : 津波総合防災対策の歴史と今後の課題, 月刊 海洋/号外, 第15号, p. 190-195.

第9章

岩崎敏夫, 1982 : チリ地震津波による土木災害の概況と津波対策について, 山田町津波誌, 260p.

気象庁, 1968 : 気象庁技術報告, 第68号, 98p.

松富英夫・里中嘉樹・池田弘樹, 1993 : 沿岸貯木場の実態について, 津波工学研究報告, 10, p. 29-42.

尚 明, 1962 : 住宅災害について, 大船渡災害誌, p. 284-286.

National Science Foundation, 1982 : Land Management in Tsunami Hazard Area, 258p.

建設省国土地理院, 1961 : チリ地震津波調査報告書—海岸地形とチリ地震津波—, 71p.

山口弥一郎, 1982 : チリ地震津波の特性と防災, 山田町津波誌, 225p.

コラム1

五十嵐之雄, 1993 : 津波災害文化の有効性と限界性, 科研費報告書「災害多発地帯の災害文化に関する研究」, p. 79-102.

首藤伸夫, 2008 : 記憶の持続性 - 災害文化の継承に関連して -, 津波工学研究報告, 25, 東北大学災害制御研究センター, p. 175-184.

尾藤正英, 2002 : 「信頼の哲学」としての日本思想, 学士会会報, 831, p. 96-109.

山口弥一郎, 1966 : 津波常習地三陸海岸地域の集落移動, 亜細亜大学教養部紀要, 1, p. 157-178.

山口弥一郎, 1972 : 津波常習地三陸海岸地域の集落移動, 山口弥一郎選集, 6, 世界文庫.

コラム2

Plafker, G. , 1965 : Tectonic deformation associated with the 1964 Alaska earthquake, Science, 148, p. 1675-1687.